

スイス・ダボスにてグローバルリスクフォーラム(GRF)のウォルター・アマン代表との会合及び 災害リスクマネジメントに関する国際シンポジウムを行いました (2018/11/22-23)

テーマ：災害リスクマネジメント，防災教育，防災啓発，防災伝承

場所：スイス・ダボス GRF オフィス (22 日)、Arabella Hotel Waldhuus Davos (23 日)

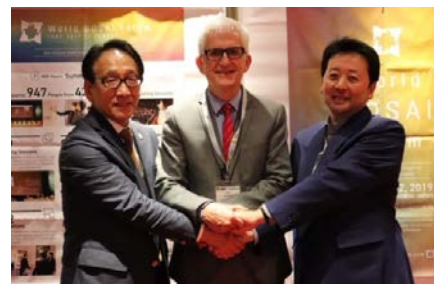
11 月 22 日 (木)、グローバルリスクフォーラム (GRF) オフィスにてウォルター・アマン代表との会合が開かれ、当研究所の今村文彦所長他、情報管理・社会連携部門の小野裕一教授、ボレー・セバスチャン助教、高阪加奈代共同研究員が参加しました。23 日 (金) の「災害リスクマネジメントに関する国際シンポジウム」に向けての目的や目標・方向性を共有するとともに、当日のスケジュールについて確認を行いました。また、第 2 回世界防災フォーラム (WBF) 開催に向けた災害科学国際研究所としての計画や意義さらに次回に向けた意気込みを伝えるとともに、防災ダボス会議 (IDRC) との連携についてアマン代表と意見交換しました。

11 月 23 日 (金) には、Arabella Hotel Waldhuus Davos において「災害リスクマネジメントに関する国際シンポジウム」が開催されました。シンポジウムにはユネスコや各国の研究者、報道関係者が 20 名ほど参加しました。第 1 回世界防災フォーラム (WBF) の概要や成果を小野裕一教授が報告を行い、全体討論では今村文彦所長による最近の災害事例としてインドネシア・パル地震津波の被害実態の報告をはじめ、欧州委員会共同研究センターのゲオルグ・ピーター氏、ユネスコの防災専門官の安川総一郎氏など 5 人が登壇し、危機管理のさらなる柔軟な解決策の提案や人材育成の重要性などが話し合われました。また、ボレー・セバスチャン助教が東日本大震災から 7 年が経った被災地の伝承活動や啓発活動を報告し、これらは世界において高い関心があり、昨今の各地で頻発する災害でその知見を活かした啓発活動や防災教育の重要性も議論されました。

また、シンポジウム最後には、防災ダボス会議 (IDRC) と連携し、来年 11 月 9 日～12 日に第 2 回世界防災フォーラムが開催されることが発表され、郡和子仙台市長からもビデオメッセージが送られました。



GRF オフィスにてアマン代表を囲んで



第 2 回世界防災フォーラムの成功を祈って



シンポジウム集合写真